

文化庁「重要文化財（建造物）耐震基礎診断実施要領」より抜粋

表1 必要耐震性能設定の目安

		機能維持水準	安全確保水準	復旧可能水準	
性能目標		大地震動時に要求される機能が維持できる。	大地震動時に倒壊せず、生命に重大な危害を及ぼさない。	大地震動時に倒壊の恐れがあるが、文化財としての主要な価値を損なうことなく復旧できる。	
活用内容		現役の社会生活の基盤となる施設（インフラ施設）。災害時の防災拠点となるもの。不特定多数が常時利用する大規模な建造物で、特に必要と判断されるもの。	通常の用途に供しているもの。	ほとんど人が立ち入らないか、滞留時間が短いもの。	
木造建築 状況の目安	大地震動時	軸組	変形が生じる。	大きな変形が生じるが、倒壊しない（層間変形角1/30以下）。	倒壊する危険性がある。
		安全	安全	生命に重大な影響を及ぼさない。	危険
		機能	機能維持	機能喪失	機能喪失
	（参考） 中地震動時	軸組	損傷なし。仕口の緩みが生じることがある。	変形が生じる。	大きな変形が生じるが、倒壊しない。
		雑作	一部が破損することがある。	破損・落下するおそれがあるが、再用して復旧可能。	過半が損壊して、失われる可能性がある。
		土壁	ほとんど被害が生じない。	亀裂を生じ、塗り替えが必要となることがある。	落下し、壁下地も損壊する。
		安全	安全	安全	生命に重大な危害を及ぼさない。
機能	機能継続	機能維持	機能喪失		